

3月3日は、ひな祭り

現在のひな祭りの意味としては、^{ひな}雛祭りは女子のすこやかな成長を祈る節句の年中行事。ひいなあそびともいう。ひな人形(「男雛」と「女雛」を中心とする人形)を飾り、桃の花を飾って、白酒や寿司などの飲食を楽しむ節句祭り。雛あられや^{ひしもち}菱餅を供える。



沖縄のひな祭りは「浜下り」

旧暦の3月3日は、沖縄ではひな祭りに相当する行事である「^{はまう}浜下り」の日です。ひな祭りでは外出するイメージはそこまで強くないものですが、沖縄の浜下りは大きく異なり、この日は家にはいけない日であるとされているのです。浜下りは文字通り浜、つまり海岸に乗り出すことがメインとなります。旧暦の3月3日は、2日前が新月(旧暦では1日が新月となるため)で、大潮となります。3日は大潮で浜が広がっていて、女の子は白砂を踏んで身を清める日であるとされました。現代においてはその風習の名残で、浜下りの日には家族や親しい女性グループでお弁当を持って海岸に遊びに行きます。身を清めるという習慣まで覚えているかはさておき、この日は海岸でお弁当を食べて遊んだり、時には踊ったりしながら楽しく過ごすのです。

浜下りの日には、海岸で遊ぶ以外にも、潮干狩りをしたり貝を拾ったりする習慣があります。確かに、海岸で潮干狩りをしたり貝を拾うことは珍しいことではありませんが、この日は潮干狩りが特に大きな意味を持つのです。ひな祭りではお祝い料理として「はまぐり」や「あさり」などが使われます。これらは、潮干狩りで入手できる食材です。その調達の意味も込めて、浜下り際に潮干狩りや貝拾いが行われるようになったのかもしれませんが。

現在でも、浜下りの日には家族や友人同士で集まって、潮干狩りを楽しむ姿を目撃することができます。

＜「真多呂人形」のHPのコラムから引用＞

※ 2017年3月3日発行の『不退転』第138号の記事を再掲しています。



不退転

第 199 号
東江中学校
校長 神元 勉

日本には平安時代を起源とする「五節句」という行事があり、季節の節目に身の穢れを祓い、健康長寿や厄除けを願う風習がありました。その一つが、3月3日の桃の節句です。しかし、沖縄で雛壇を飾っている家庭を私は、見た覚えがありませんが…。



3日(土)、大宜味中学校で第24回教職員バスケットボール大会が開催され、予選リーグ敗退(1勝1敗)でしたが、下地三保子先生がハッスルプレーヤー賞に選ばれました。